

中山道安中地域における近世の街道整備に伴う町並み形成に関する考察

日本大学      学生会員      ○佐藤    夏実

日本大学      正会員        永村    景子

1. はじめに

群馬県は現在、県内の高速交通網を補完する7つの交通軸整備が進められており、その1つである西毛軸として、西毛広域幹線道路事業が行われている。前橋市、高崎市、安中市および富岡市を結ぶ延長 27.8km の主要幹線道路のうち、安中市役所周辺は、市の中心部を通過する区間であることから、「風景を魅せるインフラ整備事業」の対象区間となっている。当該箇所は道路拡幅により既存の店舗・事業所・民家等が用地買収の対象となっており、建て替え・曳家等の対応に伴って、町並みが大きく変化することが予想される。また、地域で行われてきた伝統文化や祭りなどが失われるなどの懸念がある。

この地域は、近世には、中山道が整備されており、沿道には宿場や町並みが形成されていた。近世で形成された沿道環境や町並みは、現在の道路や町並み形成を特徴づけており、基盤にもなっている。

よって本研究は、近世の中山道・安中宿とその周辺地域である「安中地域」を対象とし、宿場とその周辺地域の村々の町並みや地域文化の形成に関する事項について調査を行う。調査は主に安中市史を用いた文献調査と、安中市における中山道のルートの把握について、メールを用いてのヒアリング調査を行った。ヒアリング調査については安中市教育委員会の方々に行った。

年表(表-1)は、研究対象地の近世における町並みや地域文化の形成に係る出来事を履歴整理したものである。本稿では、安中宿の形成、安中宿や周辺地域の市場の形成、安中藩における催事について述べる。

2. 街道整備と安中宿の設置

江戸幕府は、幕藩体制を形成・維持するために、戦国大名の支配国中心の交通経路から江戸を中心とした五街道を幹線とする交通経路に改編し、支配を関東から次第に全国的なものに発展させた。1602年に中山道が整備され始め、安中地域においても街道整備が行われた。

1614年には安中に宿場が設けられ、安中宿の町並みが整えられたとされている。「安中宿」は幕府の交通上の名称であり、安中藩の安中城下町としては伝馬町と称していた。

近世の宿場は、交通制度上の重要な基礎単位であり、

表-1 安中地域の近世歴史年表

|      |      |                                       |
|------|------|---------------------------------------|
| 1602 | 慶長7  | ・江戸幕府が安中宿中の伝馬宛を定める<br>・中山道が整えられはじめる   |
| 1604 | 慶長9  | 街道の改修と一里塚、並木が植えられる                    |
| 1616 | 元和2  | ・江戸幕府が再び安中宿中に伝馬宛を定める                  |
| 1617 | 元和3  | 中山道九十九次が定まる                           |
| 1635 | 寛永12 | 参勤交代制確立                               |
| 1659 | 万治2  | 安中・板鼻両川仮橋がかかる                         |
| 1666 | 寛文6  | 人見堀開削につき磯部3村と人見村との間に約定書               |
| 1673 | 寛文13 | ・安中宿伝馬町の市場規定を定める                      |
| 1685 | 貞享2  | 安中藩では、太鼓櫓で正月から「時の太鼓」を打ち始める            |
| 1689 | 元禄2  | 幕府が主要街道の助郷調査を行う                       |
| 1716 | 正徳6  | 諸街道の呼称が定められた                          |
| 1717 | 享保2  | 安中藩主内藤政森が安中宿市場規定を更新する                 |
| 1776 | 安永5  | 安中宿大火                                 |
| 1790 | 寛政2  | 伝馬町市場が不振のため、安中藩が伝馬町以外での売買を禁止する        |
| 1827 | 文政10 | 安中宿から熊野神社の祭りについて文書が提出された              |
| 1844 | 天保15 | 幕府、中山道原市村の杉並木の調査を行う                   |
| 1855 | 安政2  | 安中藩主板倉勝明が、城内から碓氷峠熊野権現まで藩士を走らせる「過走」を実施 |
| 1861 | 万延2  | 皇女和宮が、安中宿で小休、板鼻宿本陣に宿泊する               |
| 1862 | 文久2  | 安中宿の人々が大給馬を安中の熊野大権現へ奉納する              |
| 1870 | 明治3  | 諸国街道の本陣・脇本陣の名称が廃止される                  |
| 1872 | 明治5  | 宿場制度が全国的に廃止された                        |

交通施設も整えられた。城下町以外の宿場の場合、一般に街道沿いに 1〜3 村から宿場が形成され、家屋が帯状に連なる形態をしている。また、宿場の中央部には幕府役人や参勤交代の大名など主に武士階級を宿泊させる役目を担っていた本陣がおかれた。本陣周辺には旅籠屋などの主要な旅宿や商家が集中し、ここから宿端にかけて茶屋やその他の店舗が並ぶ傾向があった。

なお 1800 年代中頃の「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」によれば、安中宿は一般的な宿場町と異なり、安中宿周辺、両隣には家続きの村があった。図-1 は、「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」を基に、安中宿前後に及んで、家屋が帯状に連なった範囲を模式的に示したものである。安中宿を挟んで江戸側には下野尻村、京都側には谷津村-下野尻村(再)-上野尻村-谷津村(再)において家屋が連なっていた。

1870 年に、諸街道の本陣・脇本陣の名称が廃止され、1872 年、宿場制度は全国的に廃止された。

3. 安中宿および周辺地域の市場の形成

近世の安中地域では、1615 年に中山道の交通の要所である安中宿(伝馬町)で最初に市場が開設された。安中宿内の市は、六斎市(毎月 6 日間開かれる定期市)であった。市場(市)は、物資の取引を集中的に行う一定の場所のことである。市場は人の集まりやすい交通の要所や集落の中心地に設定されていた。

1673 年には、安中藩によって「伝馬町市町定め」(市

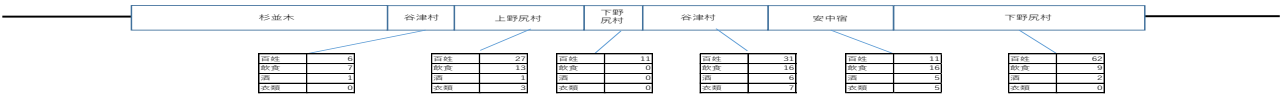


図-1 安中宿周辺地域の沿道環境の模式図

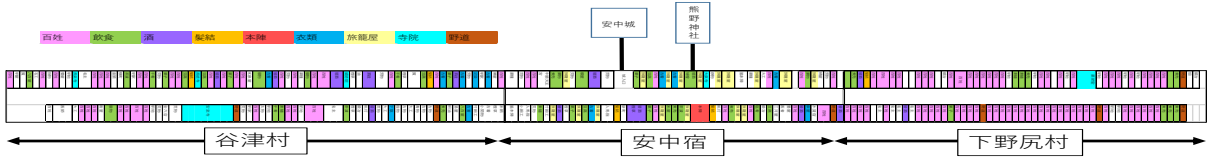


図-2 安中宿と両隣の村々の店舗概要

場規定)が定められた。安中藩には権力によって市を統括・運営する意図があり、市場以外での売買が禁止された。また、1717 年の触書では「古来の通り市場を立て、ことに絹は脇売り脇買いはまかりならぬ」とある。これによると、市場以外での売買、とりわけ絹の売買は禁止するよう命じられた。特に絹は安中宿と他の村々との利害対立が目立った。1790 年には、他の村々などで非公式に行われている取引が増大した。これは、安中宿内の市だけでなく、安中宿の盛衰にも影響するため、安中宿の町民は、市以外の他の場所での取引を防止させることを安中藩に求め、安中藩もこれに応じた。

安中地域では、中山道沿いに多くの店舗が立ち並び、多様な商品が売買された。1673 年の記録「安中宿本陣文書」によると、売買された商品は、土地の産物として絹・麻・綿・薪等、商人によって持ち込まれたものは、染物・茶・紙・塩等様々であった。また 1800 年代頃の様子は、「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」にてうかがい知ることができる。図-2 は「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」をもとに、安中宿と両隣の村の店舗の様子を示したものである。安中宿と両隣の村について、店舗の種類を色分けし、各店舗の間口の広さを横幅で示している。安中地域には様々な職種があり、どれも生活必需品を扱う店であった。また、宿場内では、参勤交代で訪れる大名や旅人などが宿泊する旅籠屋や様々な業種の商店が立ち並んでいた。周辺の村々では、農民が農業の他に飲食店や衣類品を商売していた。安中宿は宿場としての機能をもっていたので、伝馬や大名・旅人の休泊のために力を注ぐ必要があった。そのため、商業的な活動は他の村々の方が盛んであった。

4. 安中藩における催事

現在行われている安中地域を代表する催事である、「あんなか祭り」と「安政遠足侍マラソン」は、近世に端を発する。

現在の安中市で行われている「あんなか祭り」は、安中熊野神社祭礼である。安中藩領内の総鎮守とされた安

中の熊野神社の秋祭りは、安中藩主が見物していたとされる祭りであり、とても豪華であったといわれている。1827 年 10 月に安中宿から提出された文書によると、「安中宿祭礼之儀、毎年九月朔日、二日ニ候得共、神輿渡御并祭礼、・・・古来ヨリ之仕来ニ御座候・・・」とあり、当時も現在と同じく神輿渡御等は、隔年に行われていたこと、各宿村から屋台等を出していたことがわかる。

もう一方は「安政遠足侍マラソン」である。1855 年に、安中藩主板倉勝明が、藩士を城内から碓氷峠熊野権現まで走らせる「遠足(とおあし)」を実施した。1955 年に発見された「安中御城内御諸士御遠足着帳」には、走った 96 人の藩士の氏名・着時刻・着順などが克明に記されており、記録を競う遠足はこれが初めてとされる。

5. おわりに

以上のとおり、近世の安中地域には様々な職種の店舗が建ち並び、百姓や商人の生活圏として成立していた。安中宿やその周辺地域では市が形成されていた。安中地域の催事は、近世に端を発し、現在も形を変えつつも継続している。

このように中山道沿いでは、宿場やその周辺の村々では商売や催事など賑わいが形成されており、宿場のみならず周辺の村々の賑わいが大きかったことが推測できる。

西毛広域幹線道路は、中山道を横切り整備されることから、近世から続く家屋配置の大きな変化が見込まれる。また、近世から続いている熊野神社の御神輿渡御が行われなくなることが懸念される。

今後の課題は、安中地域における近世以降の町並みの変化について調査を行い、町並みの大きな変化により考えられる沿道環境への影響を調査することである。

参考文献  
1) 安中市史 第二巻 通史編 p413-428 安中市学習の森 2002  
2) 安中市史 第五巻 近世資料編 別冊付録  
風土記編 p196-197 安中市学習の森 2002  
3) 豊田武 児玉幸多 体系日本史叢書 交通史 p97-99, p105-185 山川出版社 1970  
4) 田村栄太郎 江戸時代の交通 一近世日本交通史一 p13, p57-58 雄山閣出版株式会社 1970  
5) 「安政遠足侍マラソン」ホームページ(<https://ansei-toashi.jp/>)